

令和4年度埼玉県・オハイオ州グローバルスピーカープログラム前期  
中間レポート（2）

貫井 菜緒

1. 授業

プログラム開始から約3カ月が経過しました。①疑問点をすぐに質問できる環境、②それを温かく受け入れてくださる雰囲気は、このプログラムの大きな魅力だと実感しています。最近の授業で印象に残っているのは、話題転換の表現についてです。これまで知らなかったフレーズを学び、1つ1つ知識として吸収していく楽しさを実感しています。それと同時に、授業を受ける中で感じていることは視野の広がりです。先生の説明や他メンバーの質問などから、新たな考え方を学ぶことができます。

2. ペアとの交流

現在は、最終プレゼンに向けて準備を進めています。具体的には、私たちが担当する「男らしさ・女らしさ」というテーマについて、定義の確認、アメリカと日本に関する例の洗い出し、共通点・相違点のまとめなどを行っています。英語で1つのプロジェクトを進めるという点で、日常会話とは異なる難しさがありますが、合意をとりながら準備を進めていく過程に、日々やりがいを感じています。これまで授業で学んだ知識を活かしながら、わかりやすく楽しいプレゼンを目指したいと思っています。日曜日にベストな発表ができるよう、全力を尽くします。

3. 埼玉親善大使としての活動

先日ミーティングを行い、訪問先を決定しました。具体的には、川越と北本を予定しています。「埼玉県だからこそ体験できること」を軸に、訪問先を選定する作業が非常に楽しかったことを覚えています。埼玉県の魅力を発信する活動であると同時に、自分自身も新たな魅力に気づけるきっかけになるのではないかと考えています。

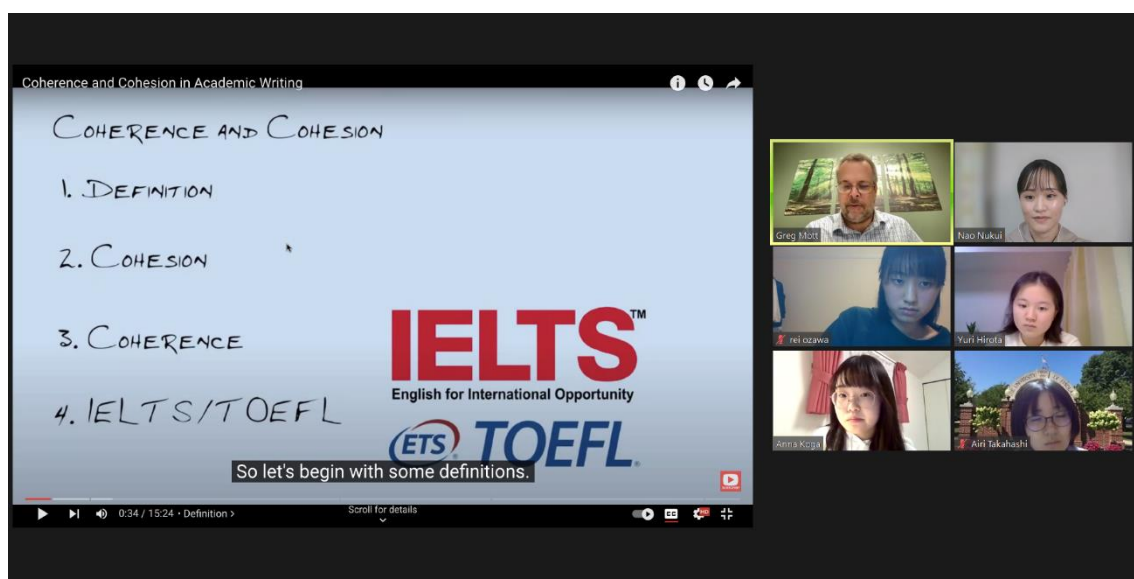
4. 気づき

2点あります。1点目は、「言語学習に終わりはない」ということです。これは当たり前のことですが、プログラムを通して強く実感していることでもあります。現在は「ホフステードの6次元モデル」について学んでいます。テーマに関する理解が深まることで、英語表現の幅が広がったときの喜びは非常に大きいです。その一方で、異なる観点から議論をしたときには、表現に悩むことも多くあります。新たな課題が見つかることで、英語学習へのモチベーションがさらに高まっています。2点目は、「異文化コミュニケーションにおいて、自国の理解が非常に重要である」ということです。今回のプログラムでは、アメリカと日本の文化的特徴について学びを深めています。活発な議論を行うためには、自国の文化について

自分の言葉で語れることが重要であると実感しました。それと同時に、外から見た日本について学ぶことができたのも、このプログラムの大きなメリットだと感じています。

#### 5. 抱負

今後は、考えながら話すことを目指して英語学習に取り組みたいと考えています。プログラムを通して、自身の思考時間の長さを実感することが多くありました。伝えたいことをすべてまとめてから英語にするのではなく、整理しながら話せるようになるよう、今後も努力を続けたいと思います。



授業中の様子